

みちのくの人のこぶしで涙ふく

月田秀子の昨日、今日、明日

歌、ファドに何ができるのか？その問いは私を苛み続ける。3月11日以降、私の頭の中で、その問いが繰り返され、私は未だに答えを出せずにいる。

私の歌う歌(ファド)は、余りにも悲しくて、ライブのたびに胸が痛む。船出したまま帰らぬ人を待つ歌、夢を海の底深く沈める歌……。歌っている私の脳裏には、あの大津波が、一瞬のうちに平和な村を飲み込んでゆく光景が、無残なその爪痕の残った町を、愛する人を捜して歩く人の姿が浮かぶ。心の痛むまま歌う。その悲しみの、その苦しみの深さ、大きさには到底たどり着けないことを知りながらも、涙は否応なしにあふれてくる。

私の歌を同じ思いで聴く人もいた。「このやりばのない悲しみは、決して私だけのものではない、そう思った時、心が軽くなりました。少し元気になれそうです」目を潤ませながらその人は、ライブの帰り際に私に言った。その言葉に私自身が救われる思いがした。「こんなとき、あなたの歌うファドが心の隙間に沁み入って、癒してくれます。」そう思いながら、私の歌うファドを聴きながら夜明けを待っている人もいる。「なぜ歌うのか？」と、歌う理由がみつからずに落ち込んでいた私のブログに次のようにコメントして下さった方もいた。「大自然が牙をむき、愚かな人間の仕業で増幅され、甚大な被害をもたらしました。その自然の営みがめぐり来る季節に桜を咲かせ、それを観て被災者が『ほっとします』と言っていました。印象的でした。

好きな歌、それもやはり、ほっとするものだと思います。特に打ち沈んでいるときこそ悲しい歌が心を安らがせるのではないのでしょうか。類稀な声と運命を歌う運命を与えられた人が人々にしてあげられること、それは歌い続けること…ではありませんか。」

それらの言葉に支えられながら月田は歌い続けている。

大阪サンケイホールでのコンサート

2008年リニューアルした大阪サンケイホール「ブリーゼ」での8年ぶりのコンサートを10月2日に開催することになりました。

1985年同ホールで一回目のコンサートを開催して以来何と26年が経つ。初回から聴き続けてくださっているファンの方もいる。私のファドはサンケイホールで育ててもらったともいえる。一回目のコンサートは、その頃歌っていたシャンソニエ・ジルベールペコーのオーナーでもあり歌の師匠でもあったシャンソン歌手の出口美保さんが道を作って下さった。キャパ1000名を超える大きな会場を埋めるために、チラシとポスターを持って大阪中を自転車で走り回った。元気だったあの頃…。ひたすら夢に向かって走っていた。

ミュージシャンは、ポルトガルギター上川保、飯泉昌宏の2名、ギター水谷和大、ベース岩田晶。ポルトガルギターが2本入ったコンサートは月田の夢でした。古くからのファンの方には、お馴染みベースの晶ちゃんも万難排して駆けつけてくれるという。

関西のファド倶楽部の会員の皆さま、一人でも多くの方にお声をかけてくださいますようお願いいたします。

「ガンジーが七つの社会的罪ということを行い、それが墓の碑文として残っている。理念なき政治。労働なき富。良心なき快楽。人格なき知識。道徳なき商業。人間性なき科学。献身なき崇拜。それぞれ噛み締めてほしいと思う」。2011年5月23日、参議院の行政監視委員会に参考人として出席した小出裕章氏（京都大学原子炉実験所助教）は、この言葉で原発批判陳述の最後を締めくくった。氏は、もともと原子力こそ未来のエネルギー源だと考え、夢を抱いて、原子力工学科に入った。入ってから、原子力が貧弱な資源だということに気づいた。とその冒頭で述べている。

私は、今回の東京電力の福島第一原発事故が起きて、初めて（やっと）原発の怖さを思い知り、脱原発への道こそ、日本人のいや人類としての採るべき道だと思うようになった。ドイツでは、「脱原発」への見直しを進めてきたこれまでの政策方針を、国内の原子炉全廃を早期に実現する方向に転換することを決定した、という。昨年秋、本堂でコンサートをした仙台若林区にある法運寺の梅森住職にそのことを遅ればせながら伝えたくて電話をした。彼は、「みやぎ脱原発・風の会」を主宰、大地震を想定した原発政策の脆弱性、浜岡原発停止等を叫び続けてきた脱原発運動の旗手だ。私は、今回の事故があるまで、そんな彼を遠巻きにしてきたことに胸の痛みを覚えていた。震災が起きて2週間が経った頃やっと連絡がとれた。「今回の福島第一原発の臨界事故で自分たちのやってきた脱原発運動の間違っていなかったことを確信した。さらに大きな声で脱原発を訴えていきたい。そのためにも僕は今回の福島原発事故の顛末をすべて見届けます。決して負けませんよ」。若林区区といえは今回の震災による津波の被害が甚大だった地区のひとつだ。幸い家人は皆無事だったというが、大震災、大津波のかなり混乱した状況の中、休む間もなく飛び回っているに違いない。豊かさとは、平和とは、今こそ、私たちは真剣に考えなければならない。

復興へのとてつもなく長い道のりを歩きだした沢山の人たちがこの同じ国土にいることを忘れずに「自分のなすべきこと、しなくてはいけないこと」を模索していきたいと思う。それは、自らの暮らし方、生き方をもう一度見直すことであり、国や社会を変えることにもつながってゆくことにもなるかもしれない。いずれにせよ、被災した人たちの無念の思い、憤り、悲しみを忘れてはならない。それを自らに言い聞かせるように「わが故郷の人々よ」というアマリアロドリゲスの詩（訳は61号に掲載）によるファドを、毎回ライブの最後に歌うことにしている。こんな具体性をもった想いでこの歌を歌うことになるとは震災前には思いもしなかったことだ。

### 同病の先輩

『人の世はファドの響きや春霞』 美子

この句は、関西在住の猪野美子さんが私のファドを聴いて詠んで下さった一句らしい。猪野さんの俳句の同人のファド倶楽部会員の中井不二男氏の紹介で、ベストアルバムCDを送らせていただいた。ほどなくして、猪野さんから随筆集「かほりの街から一宛名のない手紙」が送られてきた。

猪野さんは、12年前から線維筋痛症を患い、私とは比べ物にならないひどい痛みで365日苦しんでいるという。その壮絶な痛みの中で、書き綴った随筆集だ。神戸新聞、デイリースポーツ社に在籍、ジャーナリスト魂がいまだにぬけない。その気骨たるや半端ではない。今回の福島原発に関わる貴重な情報を逐次メールで送ってきてくれた。そのお蔭で私の脱原発への想いに火が付いたと言っても過言ではない。

その中に猪野さんを苛む痛みに触れる一言があった。「胸のこむら返り」その一言に私は飛びついた。まさにその表現がぴったりの痛みに襲われる時がある。生きる気力を奪うほどの痛み。それでも身体のどこが悪いわけでもない。悪いのは薬を飲み忘れた自分なのだ。一人ベッドに横たわりその痛みを耐える。私の場合は痛みを効く薬があるから救われる。猪野さんは、



様々な薬、療法を試した結果、いかなる鎮痛剤も効かず、ただ睡眠薬を飲み、痛みから解放されるのは、眠っている間だけだという。私の場合は、じーっとしていると余計痛みがひどくなるようで、「エーイツ」とばかりに、パソコンに向かったり、畑に出たり、プールにも行ったりする。そうしていると少し痛みがまぎれるのだ。猪野さんもそうやって痛みと同行二人で生きているのだろう。

## 特集「会報還暦 60 号に寄せて」

### 〈其の四〉

#### ファドに誘われリスボンへ

大橋 一郎（神戸市）

ファドがどのような歌なのか、月田さんの歌を聴くまでは全く知らなかったのですが、月田さんのファドは、魂の叫びというか、心の底からの想いをふりしぼる様な声に鮮烈な印象を受けたのでした。

ポルトガル語の意味はわからないものの哀切でいてしかも力強い人間の叫びは、聴いているこちらの耳というより心のなかにずんずん入ってきて、圧倒的なインパクトを植え付けてしまうのです。

やはり歌には、その人の生き様が色濃く投影されるものなのでしょう。ファドを歌う時の月田さんの顔は、それは厳しいものです。月田さん自身の人生が厳しさに満ちたものであるからこそ、あのような歌が歌えるのでしょうね。

月田さんのファドを聴いた人の中で何人もの人がポルトガルへ行って現地のファドを聴いてみたいと思ったことでしょう。私もその中の一人です。

2007年9月に妻と二人でスペイン・マドリッドとポルトガル・リスボンにそれぞれ3日間ずつ滞在する旅をしたのも、その目的の一つにリスボンでファドを聴いてみたいということがあったからです。

リスボンでファドを聴くとしたらどの店に行ったらよいかを、長年の月田ファンであり、私をファドへ導いてくれた辻さんを通じて、月田さんにお尋ねしたところ、ダイヤモンド社の「地球の歩き方」ポルトガル編に月田さん自身がファドを紹介しているコーナーがあり、そこに記載されているお店なら間違いはないということでした。リスボンへ

は、マドリッドから夜行列車で入りました。朝早くサンタ・アポローニア駅に到着し、しばらくは、初めて降り立つ街の静かな空気に身を浸すように歩きますと、そこにはなんとものんびりとした空気が漂っているように感じられました。「ファドとポルトガルギター博物館」をのぞいたり、「サン・ジョルジュ城」まで歩いて登り、テージョ川へと続くアルファマ地区の白壁と橙色の屋根が連なる街並みを眺めたりと、ゆっくりとリスボンを味わいました。ちょうど日曜日で、博物館は無料。受付の人に日本のファド歌手月田さんのことを知っているかと聞きますと、よく知っていると笑顔で返事を返してくれました。

その夜、ファドを聴くために行った店は、このアルファマ地区にある「ア・バイウカ・アルファマ」という名前のお店。サン・ミゲル教会のすぐそばにあるこじんまりとしたレストランで、早めに到着したため、我々が最初のお客の様子。店の主人と奥さんが応対してくれ、例のガイドブックを見せると月田さんもこの店で歌ったことがあるという。ガイドブックを貸して欲しいと言われ、どうするのかと思っていたらどこかでカラーコピーをして来て、店に置いておくのだと人懐っこい笑顔で話す。

食事をしながら待つこと暫し、我々のテーブルのすぐ前でファドの演奏が始まります。ギターとポルトガルギターの伴奏で一人が3曲程歌うと次の歌手に交代していく。このようにして何人かが歌ったあと店の奥さんが歌い、調理場のおばさんが歌う。これがまた良い声で歌うのですが、お客が立て込んでくると調理場から声がかかり、渋々調理の仕事に戻っていくというオオラカさ。

午前0時をまわっても延々とやっているのですが、旅行者の悲しさ、次の日の予定を考えるとホテルへ引き上げる時間となります。すると店の主人が車の通る道まで案内してくれ、タクシーを呼び止めて乗せてくれます。夜遅い時間は日本ほど安全ではないことも確かなようです。

次の日には、「クルベ・ド・ファド」という店に行きました。こちらの方は、名門ファドハウスということで、広い店内で歌手も少しグレードが高いそうです。ただ、前日にざっくりぼんやりとした雰囲気を知ってしまった身としては、少し窮屈に感じたのも事実です。しかし、それなりに高級感があり、落ち着いた雰囲気が感じられ、ファドにも色々な楽しみ方があるということを知ったのは収穫でした。

今、思い返してみますと、ポルトガルという遠い国まで引き寄せられるようにあのような旅をしようとは、ほんの少し前までは思いもしませんでした。勤めをもつ身としては、自ずと旅程は限られてきます。わずか3日間という

短い期間では、本当のポルトガルやファドの素晴らしさを理解することは不可能だとは思いますが、ポルトガルのかつての栄光の跡と現在のゆったりとした時間の流れる老成した街のたたずまいは実感できたように思います。この街でファドに魅せられ、ファディスタを自らの人生の進むべき道と思い定められた月田さんの強い思いの原点が何であったか、はっきりと掴むことは出来ませんでした。月田さんの名前を挙げれば、よく知っているよと笑顔で返事を返してくれるリスボンの人々の声のなかに、やはり月田さんの足跡はかの地に残り、日本での活動は本物なんだという思いが私の心の中に強まったことだけは間違いありません。

やはり、私にとってのファドは月田さんのファドなのです。

月田:「バイウカ」は、日本だけでなく各国のマスコミにも取り上げられ、その結果、観光客がおしかけ、当初のファド・ブァディオ(プロもアマも地元のファドの好きな連中が歌い集う店)としての魅力が無くなってしまったという噂をききます。6月16日から3年ぶりにリスボンへ行って確かめてきます。

会報60号記念還暦特集は、この投稿をもって終了いたします。ご投稿下さった皆様ありがとうございました。

### BSプレミアム「Amazing Voice」でファド特集

月田のポルトガルギターだけ出演予定。

6月30日(木)午後9時から58分

## 月田秀子のスケジュール

7月3日(日)東京・四谷「マヌエル」\*要予約

「昼下がりのファド Vol.8」

開場:12:00 開演:13:30

料金:5,000円(料理・チャージ込)

\*予約・問合せ:03-5276-2432

\*マヌエルでのライブは10月までお休みさせていただきます。

7月23日(土)大阪・千里「千里ヤマハホール」

「La Fado Marchee」

開場:15:00 開演:15:30

\*入場無料ですが招待入場券が必要です。残席わずかです。

予約・問合せ:080-1488-1208

8月4日(木)山形・山形郷土館「文翔館」中庭

開場:18:30 開演:19:00

チケット:1,500円(前売一般)

\*問合せ:023-635-5500

8月6日(土)名古屋・千種区「ビストロ・ルバープ」

開場:17:00 開演:18:00

charge:3,000円 dinner:3,800

予約・問合せ:052-784-8166

8月7日(土)神戸・中華会館

「勲章受章記念コンサート」

開場:13:00 開演:13:30

料金:前売り3,800円

問合せ・申し込み:090-1224-8072

サロン・ド・あいり 078-241-1898

\*別紙チラシ参照

\*「サロン・ド・あいり」の福原さんのご厚意で実現しました。

10月2日(日)大阪・桜橋「サンケイホールブリーゼ」

「勲章受章記念コンサート」

開場:15:30 開演:16:00

入場料:5,500円(全席指定)

問合せ:06-6341-8888

\*別紙チラシ参照

10月5日(水)東京・四谷「マヌエル」\*要予約

「サウダーデの夜 Vol.88」

開場:18:00 開演:20:30/21:30

ショーチャージ:2,800円

予約・問合せ:03-5276-2432

11月2日(水)東京・四谷「マヌエル」\*要予約

「サウダーデの夜 Vol.89」

開場:18:00 開演:20:30/21:30

ショーチャージ:2,800円

予約・問合せ:03-5276-2432

11月6日(日)東京・四谷「マヌエル」\*要予約

「昼下がりのファド Vol.9」

開場:12:00 開演:13:30

料金:5,000円(料理・チャージ込)

予約・問合せ:03-5276-2432

【編集後記】なし崩し的にふるさとを追われ奪われてゆくかの地の人たちの怒りのやり場さえなく、権力争いの亡者たちのから騒ぎに、がんばれニッポンの掛け声も嘘っぽく響く。畑で草ひきをしながらも、自身の身の振り方やいかにと問う声がある。

月田秀子ファド倶楽部 <http://www.fado.jp>

ファド倶楽部ジャーナル63号2011年6月12日発行

〒283-0054 千葉県東金市下谷314-3

TEL:0745-71-2133 FAX:0745-71-2132 mail:info@fado.jp